

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巢 1F		
所在地	岐阜県本巢市文殊959-1		
自己評価作成日	平成29年8月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/i/ndex.php?acti.on.kouhyou.defai.1.2016.022.kani.tr.ue&ji.gvosyoCd=2193400021-00&P.efCd=21&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【人の和の繋がりに】のケア理念の元、ご利用者様と職員の和として関わり方や接し方、希望への対応のしかたなどご本人様を主軸としたケアを目指している。次にご利用者様とご家族様の和としてご面会へのお声掛けに始まりお越し頂いた時の状況報告や接遇力ある対応を目指して教育を行っている。ご面会以外にもお電話での状況報告やケアプラン更新時にお手紙にて近況報告をさせて頂いている。次にご利用者様と地域の和での取り組みは、地域行事参加としていきいきサロンや地域の祭り参加に始まり、職員の地域清掃活動を行い関わりを持ち、運営推進会議や散歩、敬老会など大型企画や平素から取り組んでいる事で関わりを保っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「自由にありのままに自分らしく」の母体会社の方針に合わせ、利用者、家族、職員、地域との輪を大切にして「人の和の繋がりが」広がるケアに取り組んでいる。利用者に対する接遇を意識づけた関わりを心がけ、言葉遣いは特に注意している。地域で開催しているいきいきサロンや認知症カフェに利用者も出かけ、住民との交流を楽しむ機会にしている。祭御輿が事業所で休憩し、地域との和や繋がりを深めている。運営推進会議に広域連合・市・地域包括支援センターと行政からの出席が多く、介護相談員も受け入れている。会社全体で各種委員会を作り、それぞれの施設の良さを活かしながら、年間研修計画等で事業所が向上できる仕組みを作っている。職員のヒヤリングに合わせて目標設定と自己評価を行い、常に質の向上に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【人の和の繋がり】をケア理念に掲げてユニット会議内での検討会、唱和など行い意識向上への取り組みを行っている。	「自由にありのままに自分らしく」の方針に合わせ、利用者、家族、職員、地域との輪を大切にして「人の和の繋がり」とする理念にしている。毎日の唱和と会議で実施内容を確認しつつ、日々の介護で実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙や地域の方のボランティアを御受入れさせて頂き、ことさらからお声のかかった行事などにご参加させて頂いている。	いきいきサロン・認知症カフェ・織部祭・散歩等に出かけ、住民と会話し花や野菜をもらっている。絵手紙等のボランティア来所時は、お茶を飲み話をして交流できる時間になっている。地域の清掃活動にも協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々散歩でのご挨拶や地域のいきいきサロンなどへご参加させて頂き、地域の方との交流を行わせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・広域連合・地域包括支援センター・市役所敬愛課の方々にご参加頂き、施設での行事報告や研修報告などを行い、施設向上の為ご意見を頂いている。	市関係者の出席が多く利用者と家族代表も参加し、事業所の近況・行事報告や月間目標を伝えている。言葉遣い・外出への取り組みやインフルエンザ予防に向けての助言があり、職員で検討し取り入れた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて施設状況を報告している。加えて介護相談員にも来訪頂いている。	電話やメールで連絡する場合も多いが、会議案内や書類提出時は市に出向き、実情を伝え相談している。介護相談員に気づいた事や相談内容を、事業所に報告してもらい、サービス向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0と言う事で取り組みとして研修やご利用者の身体機能向上を図り現在身体拘束はありません。ご家族様へは適時ご利用者さまの状況をご説明させていただいています。	身体拘束に関する外部研修や事業所内でも勉強会を行っている。きつい口調や指示的な言葉は、特に注意している。リビング入口は利用者が開錠できるサムターン式で施錠し、外に行く人には職員が付き添っているが、開錠できない人の行動制限がある。	利用者の安全を優先しての施錠であるが、入口ドアの開閉時はチャイムが鳴る設備である。職員体制や生活時間を見計らい、利用者の状態に合わせて、開錠できる方法の検討が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【虐待防止】の研修を会議時全職員参加で実施しお互いがお互いを注意できる姿勢及び体制作りをおこなっている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護に関する制度」の研修を実施していますが、現在施設で支援している方はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分に時間をとり説明を行い、家族の不安や疑問点、要望等を尋ね、理解して頂けるよう説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の代表に運営推進会議に参加して頂き、意見をお伺いしている。またご家族様来訪時にはお話を聞く機会も設けている。	日常生活のなかで利用者から意見を聞いている。家族からは面会時に聞く事は多いが、電話やメールで聞く場合もある。出た意見の内容により申し送りで報告したり、ユニット会議で検討したりして運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業者がヒヤリングの場で職員の意見を聞き、ユニット会議の時も個々の意見や提案を聞き、反映できるよう努めている。	管理者は日頃の業務内や会議で意見を聞いている。正規職員は年4回・非正規職員にも日程を合わせてヒヤリングし、意見を聞いている。出た意見をユニット・運営会議で検討し、備品修繕や購入等をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に数回ヒヤリングを行なって、職員の思いや目標を聞いている。職員間での評価を行い、自己評価と共に客観的な評価に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会があり、研修内容を検討・作成している。ユニット会議の時に研修をし、施設長、チーフの指導にて技術、知識が向上できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が他のグループ施設に出向き、委員会を通じて、意見交換や事例検討を行なっている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問でご本人と面接して、思いを傾聴し安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で家族の思いを傾聴し、安心と信頼をして頂けるような関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人の思いを傾聴し、情報提供をしながら、良いサービスを利用出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に行ってしまうことがあるので、出来る限り一緒にやって頂けるよう、声掛けと支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は利用者様本人とご家族様の思いや要望をお伺いしながら、良い関係が築けていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者同士がご近所だった方の会話の場の支援をしている。加えて馴染みの方へもお電話にて近況報告させて頂き、関係継続の為ご面会へお越し頂いている。	馴染みのパン屋・書店・喫茶店・理美容院等に行き、買い物したり友人と会話したりしている。年賀状・手紙の宛名書きや代筆をし、電話をかけるなど、馴染みの関係が途切れないようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常茶飯時の中で、利用者様同士が仲良く、楽しく関わり合える空間を作るよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も電話で近況などを伺っている。 ご家族からの情報も頂いています。その他に馴染みのお店に伺うや土地へ赴くなどの活動を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや要望をお聞きして、日常の表情や反応をみることで思いをくみ取りながら支援している。	思いや意向を伝える人は少なくなっており、その人に合わせた聞き方を工夫して把握している。おやつや飲み物は指さしや頷きで応えやすくしている。難しい人には生活歴からの推測や家族に聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、ご本人との日々の会話の中から、今までの生活を多く知り、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのADL、出来ること、出来ないこと、生活パターンを把握し、日々の暮らしの流に沿って状況を把握していくよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、ご本人、ご家族からの情報を含め、カンファレンスに於いて職員全員でモニタリングを行い作成している。	医師の意見を参考にして、利用者や家族の意見を聞き介護計画を作成している。日々の生活記録と施設介護経過・モニタリング表の記載を基に、3ヶ月毎又は必要時に見直し、全職員で検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送りなど日々の様子、気づきの情報を共有し、モニタリングを行い介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の状況に応じて情報を収集し、新たなニーズに応じられるよう努めている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護、訪問歯科、マッサージ、理美容、ボランティア等のサービスを取り入れ、地域の人と一緒に暮らせるよう取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの主治医による月2回の訪問診療があり、必要な時は他病院への受診も支援している。	入居時に協力医に変更する利用者が多い。専門医の受診は家族に連絡し、職員が付き添う場合は結果を報告している。訪問診療の歯科や眼科、訪問鍼灸師や看護師等も希望に合わせて利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は週一回の訪問看護師に利用者様の心身状態や異常、気づきを伝え相談し、適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には情報提供をしっかりと行い、面会時には病院関係者との情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針をもとに説明を行い、必要に応じてご家族と話し合いを持つようにしている。職員の看取り介護研修を行なっている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針を、入居時に説明している。利用者の状態に合わせて、栄養剤の補給や食事の形態等に配慮し、家族と話し合いながら方向性を確認している。利用者や家族の思いを尊重し、医療職とも連携し看取りにも対処している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルで研修を行なっている。応急手当については訪問看護師の指示を仰ぐ。その他に緊急対応フローチャートに沿って対応を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、定期的に訓練を実施している。地域の方への協力を運営推進会議や回覧板掲示でお願いをしている。	夜間想定も含め火災・地震・風水害の避難訓練を年4回実施し、時間計測し問題点を話し合っている。ハザードマップを使用した勉強会をし、水・食料・防災用品等を備蓄している。住民の協力を依頼しているが実現していない。	回覧板でのお願いや運営推進会議で住民の協力を呼びかけている。夜間の職員体制は手薄になることも踏まえ、様々な機会を通して更なる働きかけが望まれる。

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、誇りやプライバシーに配慮した言葉使いや言葉かけの対応に努めている。	利用者一人ひとりを尊重した姿勢で接し、特に言葉遣いには配慮している。排泄や入浴時はドアやカーテンを閉め、羞恥心に配慮している。利用者の呼称は名字を基本にし、表札は希望者のみ掲げている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の能力に応じた選択が出来るよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の暮らしの中で一人ひとりのペースを大切に、日々を過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好きな服を選んで着て頂いている。起床時は洗顔タオルと櫛などご用意させて頂き、整容を支援させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、好みの物をお伺いしている。 テーブル拭きや食器拭き等を一緒に行なえるよう支援している。	利用者に希望を聞き、栽培した野菜や地元産で旬の食材を使い、ユニット毎に献立を決めている。下準備・後片付け・おやつ作り等を一緒に行ない、行事食や外食の機会もある。職員と話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎日チェックしている。一人ひとりの心身状態に合わせ、食事量や食事形態を考えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った声掛けと介助を行なっている。月2回の訪問歯科によるケア、治療も行なっている。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表を元に一人ひとり自立に向けて、声掛け・誘導・介助を行なっている。	利用者に合わせてトイレ誘導し、トイレ排泄を基本としている。夜間のみポータブルトイレを使用する人もいる。入居時にオムツ使用であった人が、リハビリパンツや布パンツに改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の食物繊維を多く採れるようにしたり、夕食時にヨーグルトを召し上がって頂いている。 体操や運動の支援も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週2回は必ずご入浴頂きその他にご利用者様の要望に沿って、入浴をしていただけるよう努めている。	利用者の希望に合わせて毎日でも可とし、時間や回数を調整し足浴・シャワー浴等も対応している。季節の菖蒲や柚湯にしたり、シャンプーや入浴剤も好みにしたりしている。嫌がる人には声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調、要望に応じて休息していただいている。夜間の照明も個々の要望に応じた対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬について職員全員が把握して支援している。症状の変化により薬の追加、変更があった場合は申し送りに依り、確認と周知をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一日を楽しく過ごせるよう利用者様皆さんで出来ることを支援している。 洗濯物たたみや食器拭き等をお手伝い頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事にて外出する機会を作り取り組んでいる。日常的には近くの神社やホーム周辺へ散歩に出かけている。	日頃の散歩・買い物や喫茶店の外出等は、職員が1対1で対応している。中庭でひなたぼっこや洗濯物干しをしたり、畑で野菜を作ったりしている。バラ園・谷汲山・文殊の森など、花見や紅葉狩りに出かけている。	

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっているが日常的に使えるよう小口資金を使用し配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があれば電話をしたり、家族との連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除をして清潔を心がけている。リビングの壁面にイベントや写真等を貼り、皆さんと一緒に見て思い出されている。	リビングに季節の花を生け、壁には行事の写真や利用者の作品・壁画等をかけて会話が弾むようにしている。夏にはグリーンカーテンで日差しに対処し、室温・湿度や換気にも注意している。手すりや水回りの消毒は入念に行い、清潔な環境に心がけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席、ソファー席など自由に移動され、気の合った方同士で楽しくレクリエーションしたり、お話されたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族との協力で家具、テレビ、冷蔵庫等、使い慣れた物を持ってきていただいている。	使い慣れた布団・TV・冷蔵庫・時計・ラジオカセット等を持ち込み、家族写真やカレンダーを置き、思い思いの居室にしている。畳の居室で昼寝する人には、マットを準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口の名札、トイレの案内表示、手すり、洗面所の高さの調節をし、一人ひとりの身体機能の状態に合わせた設備や環境作りを工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400021		
法人名	株式会社エステートホーム		
事業所名	サロン・ド・フレール本巣 2F		
所在地	岐阜県本巣市文殊959-1		
自己評価作成日	平成29年8月22日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/index.php?act=i.on.kouhyou_detai1_2016_022_kani%27rue&ji_gvosyoCd=2193400021-00&Pr_efCd=21&Ver_sionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【人の和の繋がり】のケア理念の元、ご利用者様と職員の和として関わり方や接し方、希望への対応のしかたなどご本人様を主軸としたケアを目指している。次にご利用者様とご家族様の和としてご面会へのお声掛けに始まりお越し頂いた時の状況報告や接遇力ある対応を目指して教育を行っている。ご面会以外にもお電話での状況報告やケアプラン更新時にお手紙にて近状報告をさせて頂いている。次にご利用者様と地域の和での取り組みは、地域行事参加としていきいきサロンや地域の祭り参加に始まり、職員の地域清掃活動を行い関わりを持ち、運営推進会議や散歩、敬老会など大型企画や平素から取り組んでいる事で関わりを保っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関やホール内等へ掲げ、朝礼時や勤務の前に確認を行い、月2回の施設内会議時に理念の確認をし共有・実施していく様に話し合っています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙・踊り・手品等、地域の方がボランティアにお越し頂き行って頂いています。地域の行事に参加をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様と共に事業所周辺へ出掛け、地域の方にお会いした時には、会話を楽しみ自家製野菜やお花を頂いたりし交流をしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内会議では、施設での生活や取り組みについての報告をし、会議メンバーからの意見や情報を頂き、参考にしてサービスの向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて、施設の取り組み等を報告しています。介護相談員の方にも来訪して頂き、ご協力をして頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設会議内にて、「身体拘束」についての研修を実践し、拘束を行わなくてもいい支援を出来る様に取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	当施設内にて、「虐待防止」の研修を実践し、職員同士が連携をし注意を払い声を掛け合い、虐待に繋がらない様に努めています。		

サロン・ド・フレール本巣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	「権利擁護に関する制度」の研修を実施していますが、現在、施設で支援をしている方はありません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、十分に時間をとり説明を行い、ご家族様の不安や疑問点・要望等をお尋ねをし、ご理解をして頂ける様に説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の代表に、運営推進会議に参加して頂き意見をお伺いしています。また、ご家族様の来訪時にはお話を聞きする機会を設けています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者や代表者がヒヤリングの場を設け職員の意見を聞き、施設内会議時にも個々の意見や提案を、聞きそれを反映出来る様に努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年間を通して、数回ヒヤリングを行い職員の考える思いや目標を確認しています。職員間での評価を行い、自己評価と共に客観的な評価に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会があり、研修内容を検討・作成を行い、施設内会議時に研修を施設長及びチーフの指導の下技術、知識の向上を出来る様に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自施設、グループ内の研修を行います。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問で、ご本人と面接して思いを傾聴し安心して頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問で、ご家族の思いや要望を傾聴し、安心と信頼をして頂ける様な関係を築ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、ご本人の思いを傾聴し情報提供をしながら、良いサービスを利用出来る様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用様に対して職員が一方的に介助を行ってしまう場合がある為、ご本人様に出来る限り一緒に行って頂ける様に声掛けと支援をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、ご利用者様本人とご家族様の思いや要望をお伺いしながら良い関係が築けていける様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご利用者様同士が、ご近所でした方の会話の場を支援します。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	当施設内の生活の中で、ご利用者様同士が楽しく仲良く関わり合える空間作りに努めています。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所をされた後も、お電話にて近況をお伺いし、ご家族様からの情報を頂き関係性を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様ご本人様の思いや要望をお聞きして日常の表情や反応をみることで、思いを組み取りながら支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人様との日々の会話の中から今までの生活を多く知り、サービス利用の経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様、一人ひとりのADL、出来る事、出来ない事の生活パターンを把握し、日々の暮らしの流れに沿って状況を把握していく様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員がアセスメントを行い、ご本人様、ご家族様からの情報を含めてカンファレンスに基づいて職員全員でモニタリングを行い作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、申し送り等日々の様子気づきの情報を共有しモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の日々の状況に応じて情報を収集し、新たなニーズに応じられる様に努めています。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージ、理美容、ボランティア等のサービスを取り入れ、地域の人と関わり一緒に暮らせる様に取り組みを行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設では、主治医にて月に2回の訪問をして頂き診療を行っています。必要時には、他の病院への受診を支援しております。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設、職員は週1回の訪問看護師にご利用者様の身体状態や異常・気づきを伝え相談をし、適切な看護を受けられる様に支援を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、ご利用者様の情報提供をしっかりと行い、面会時には病院の関係者様との情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を基に、必要に応じてご家族と話し合いを持つ様にし、当職員にも看取り介護研修を行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故対応マニュアルに基づき、当職員へ研修を行っています。応急手当てについては、訪問看護師に連絡を行い指示を仰ぎます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下、定期的に訓練を実施して当職員の知識や意識を高めています。地域の方々との協力を運営推進会議を開催し、お願いをします。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、一人ひとりの尊厳を大切にし、誇りやプライバシー・羞恥心に十分に配慮をし、声掛け時の言葉遣いの対応に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人様の能力に応じた選択を自己決定、出来る様に支援をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で一人ひとりのペースを大切にし、毎日を充実した生活を過して頂ける様に支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好きな服を選んで着て頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューやおやつ等、好みの物をお伺いをし提供をさせて頂いています。テーブル拭きや食器拭き等を行える様に支援をしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎日チェックをし、管理を行っています。ご利用者様、一人ひとりの身体状態に合わせて食事量や食事形態を考えて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、ご利用者様一人ひとりに合った声掛けをし介助を行っています。月2回の訪問歯科によるケア、治療も行っています。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄表を設け、ご利用者様一人ひとり自立に向けて、声掛け・誘導・介助を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の食物繊維を多く摂取して頂ける様にしたり、朝食時にヨーグルトを召し上がって頂いています。体操や運動の支援も行って頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者様一人ひとりの要望に沿い、入浴をして頂ける様に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの体調・要望に応じて休息をして頂いています。夜間の照明も個々の要望に応じた対応に、努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者様一人ひとりの薬について、職員全員が把握をし支援しています。症状の変化により、薬の追加・変更があった場合は申し送りにて確認を周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の一日を楽しく暮らせる様に、ご利用者様皆様で出来る事を支援しています。洗濯物たたみや、食器拭き等を行って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間の行事にて外出をする機会を作り、日常的には近くの神社や当施設の周辺へ散歩に出掛けられる様に努めています。		

サロン・ド・フレール本巢

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理等は、職員が行っていますが日常的に使える様に配慮しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様よりご要望がある時は、電話をしたり家族との連絡が取れる様に支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の清掃を行い清潔を心がけています。リビングの壁面には、イベント時の写真等を掲示をし皆様に楽しんで頂いています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのソファやテーブル席等、自由に移動され気の合う方同士で楽しく会話をされたり、レクリエーションをされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様とのご協力で、家具・テレビ・冷蔵庫等使いなれた物をお持ち頂いています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の名札やトイレの案内表示、手すり、洗面所の高さの調整を行い、一人ひとりの身体機能に合わせて設備や環境作りに努めています。		